

特248

874



\*0048170000\*

0048170-000

特248-874

**職業科に対する教授及訓練の実際**

滋賀県坂田郡南郷里青年学校・編

滋賀県坂田郡南郷里青年学校

昭和12

AHH



特248

874

職業科に對する教授及訓練の實際

南郷里青年學校







特248  
874



對  
する  
教授及訓練の實際





職業教育に對する教授及訓練の實際

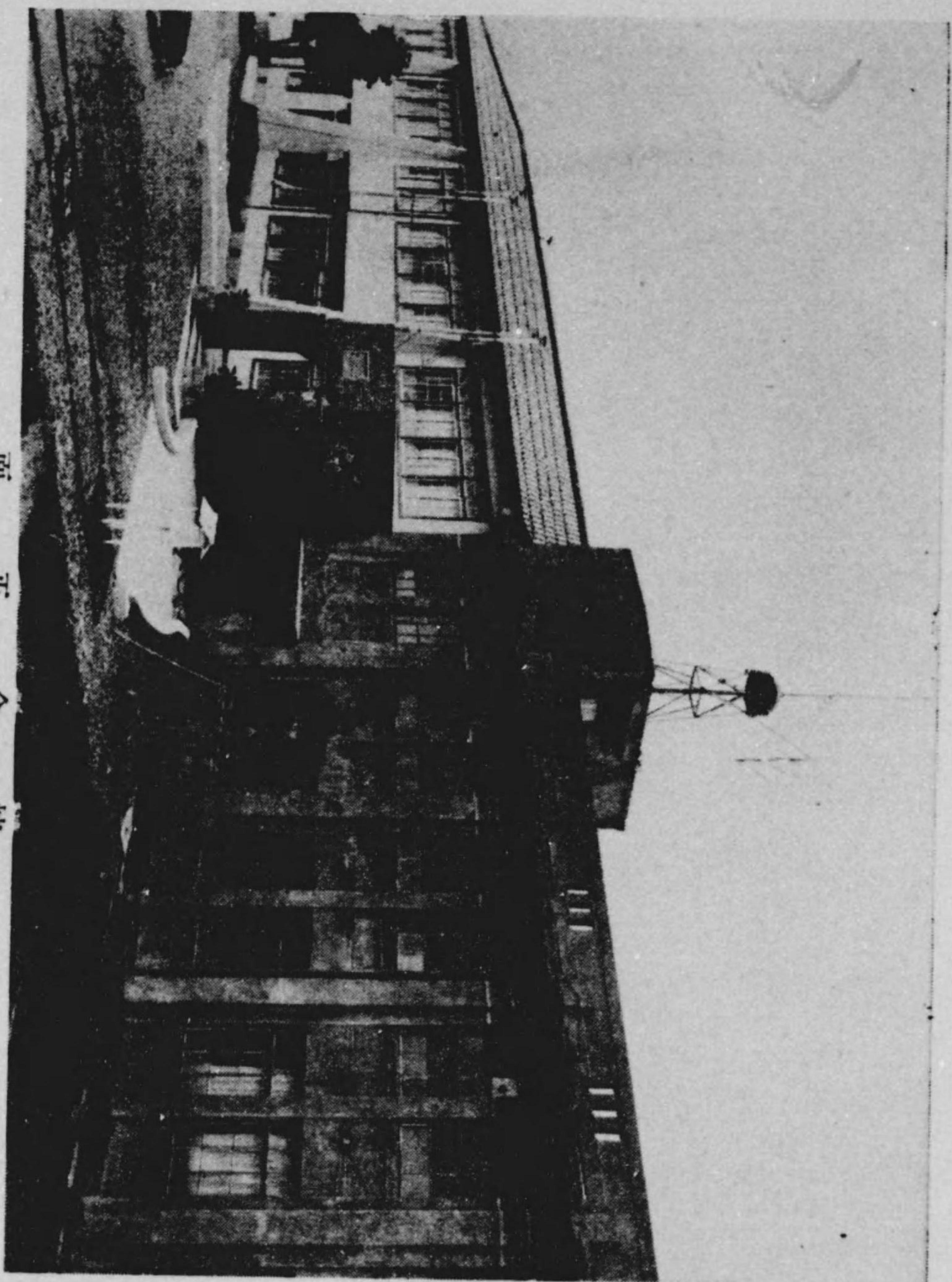
序

第一篇 緒言

第一章 研究發表に就いて	.....
第二章 本校の全貌	.....
第一節 沿革	.....
第二節 學則	.....
第三節 組織	.....
第四節 教育經營の概要	.....
第五節 青年學校教育の重要性	.....
第六節 本校教育經營の根據	.....
第二篇 本校職業科に對する教授及訓練の實際	.....
第一章 職業教育實施上の基礎的調査	.....
第一節 村の職業に關する歴史的文化的考察	.....
第二節 村の職業に關する地理的事象の概観	.....
第三節 村の職業別戸數人口動態	.....
第四節 村の生産調査	.....

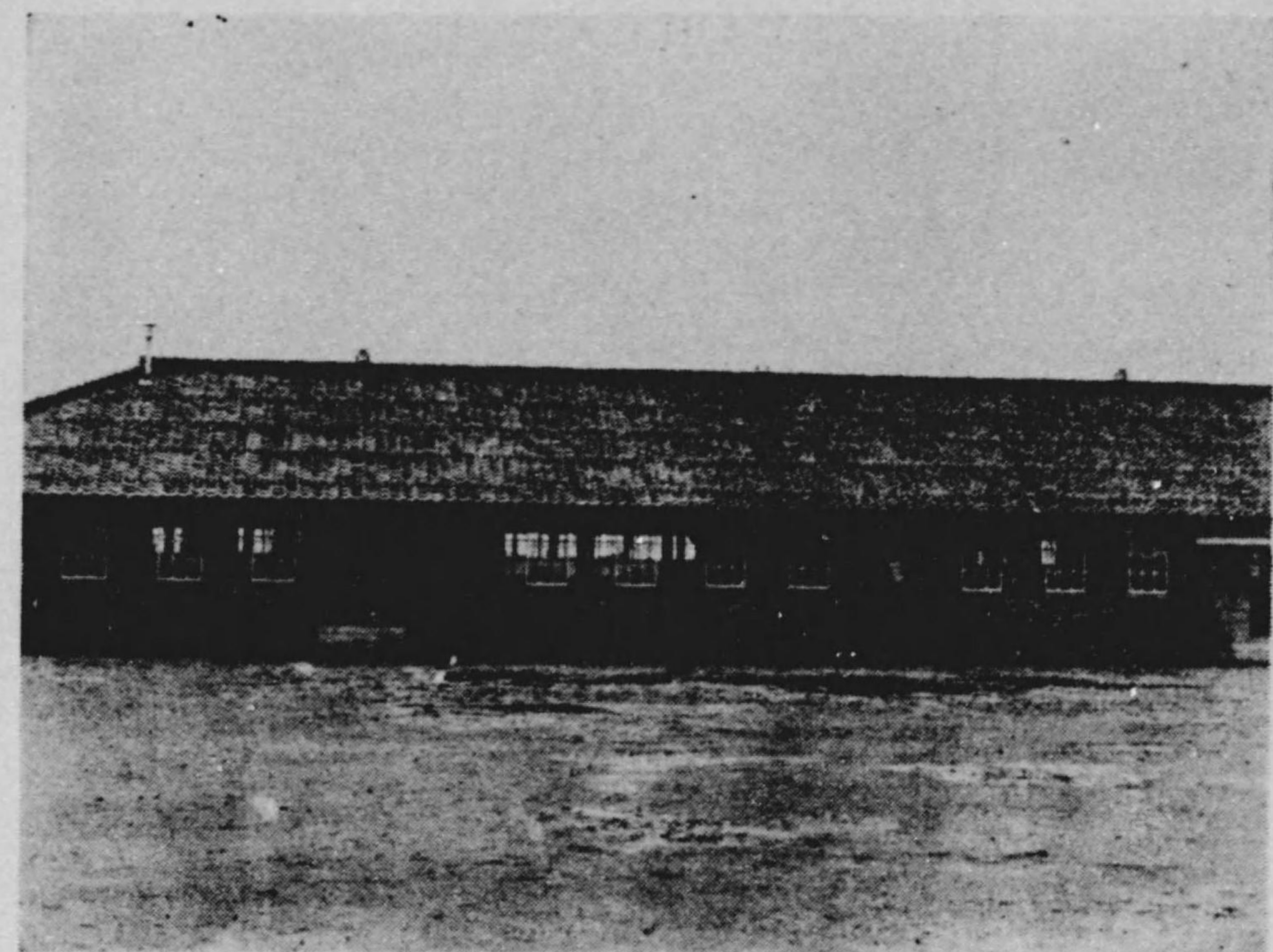


第五節	肥料調査	.....
第六節	村の農家勞力調査	.....
第七節	村の耕地面積調査	.....
第八節	村の農家業務調査	.....
第九節	村の産業団体調査	.....
第十節	生徒の家庭調査	.....
第十一節	村の特殊事情	.....
第二章	職業教育に対する態度	.....
第一節	本校職業教育の方針並教育綱領	.....
第二節	作業訓並模範人物	.....
第三節	職業教育に対する教師の信念	.....
第三章	職業教育方案	.....
第一節	職業教育体系	.....
第二節	實習指導に就いて	.....
第三節	宿泊訓練と職業指導	.....
第四章	農業に従事せざる者の取扱	消畧
第五章	女子に対する職業教育に	消畧
第六章	職業科施設に要する諸經費	消畧
第三篇	結びの言葉	.....

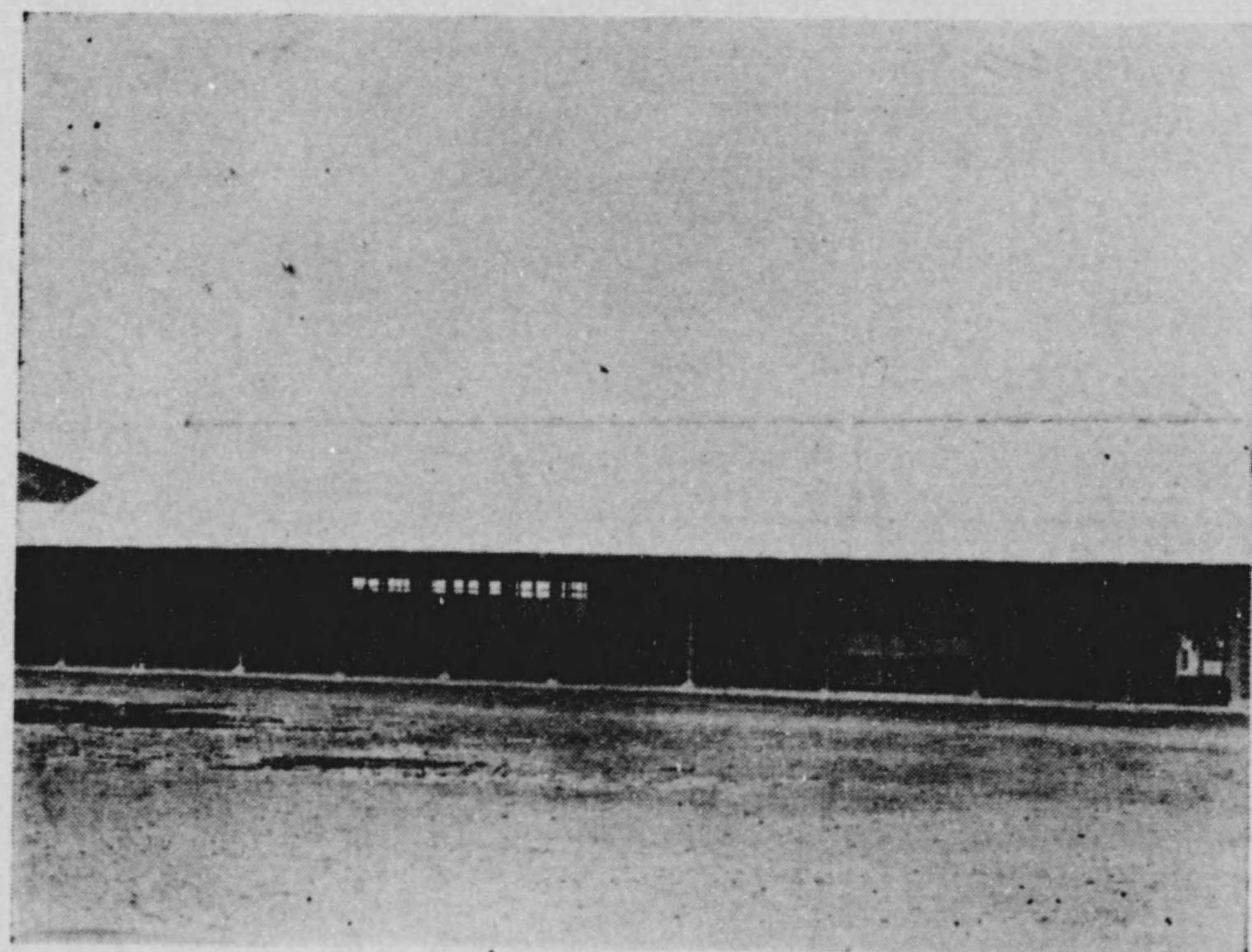


面 正 舎 校





室教校學年青



室業作





加工品の一



動力室















# 序

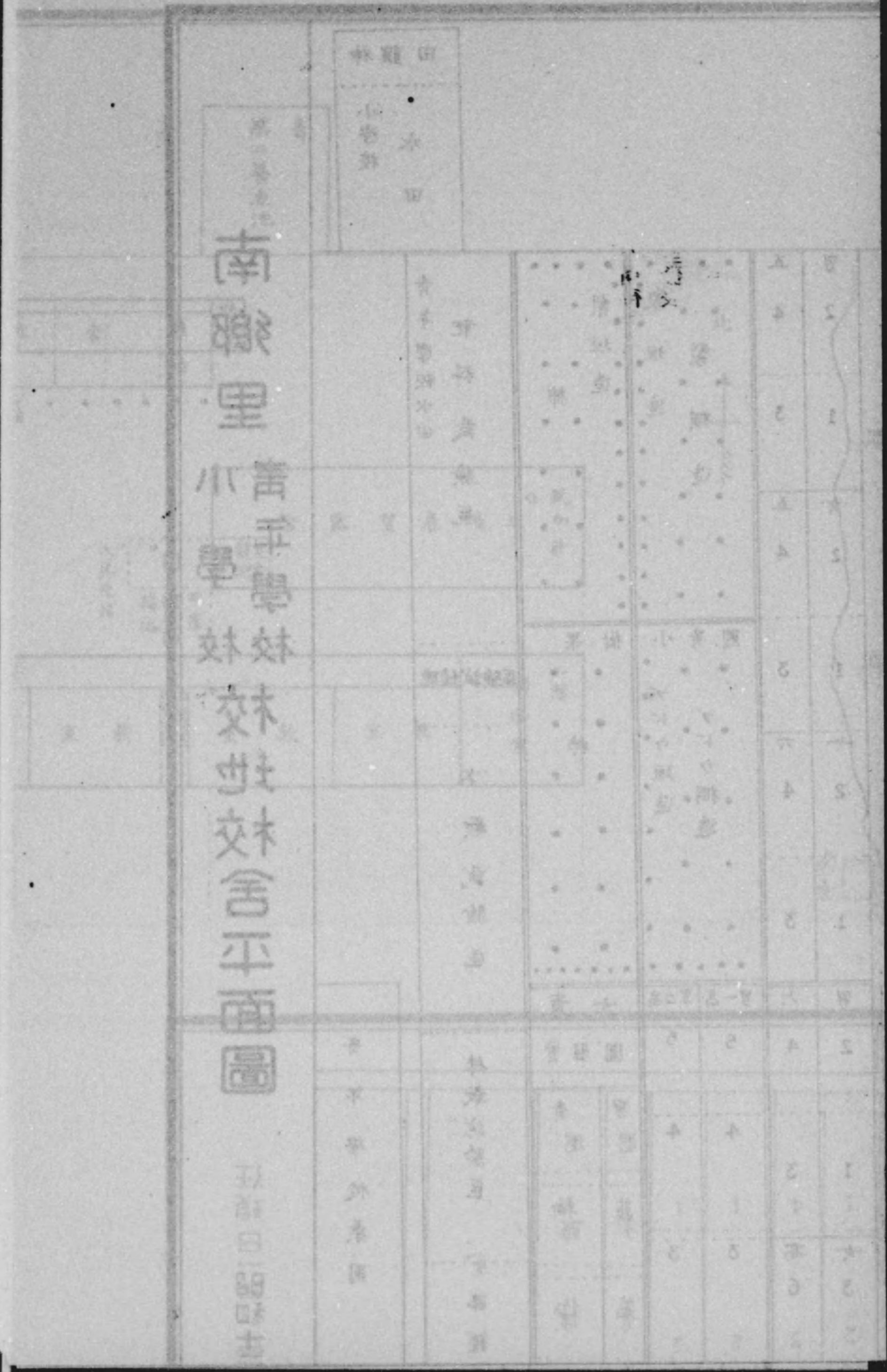
昭和聖代の教育史上を飾らるべき一偉績として、邦家の爲男女大衆青年の爲同慶に堪へぬことは、我が青年學校令新制度の公布である。是れ實に、我國青年教育の劃期的大革新であつて、即ち從來の實業補習學校及青年訓練所兩制度の各特質の採擇統合と、更に時代の趨勢に伴ふ大改善を加へられし結果、本教育は俄然向上進展を促され、今や全國的にその内容形式共に充實整備の結果を示し來つたのである。此の秋に當りて「職業科に對する教授及訓練の實際」なる題名を以て、本縣第一回の青年學校研究發表會を本校に配せられしことは、本校として無上の榮譽であると共に、更にその責任使命の頗る重大なるを感じざるを得ないのである。而も自ら省みて「その榮譽に報ひ得るの教育の營みが果してなされつゝありや。」「その使命に應へ得る實績の發表に値するものゝ存すや。」と自問する時、甚だ忸怩躊躇せざるを得ないのであるが、本日茲に展開せし本校の實態は、最近本校並に小學校職員及生徒の協力一致此の光榮ある大使命を果さむが爲に精勵努力せし赤裸々なる到達點であつて、實に淺薄貧弱折角來會諸賢各位の期待を裏切ることの大なるを怖るゝものである。されど各位の賢明なる見解により、本校の施設經營乃至發表を資材として忌憚なき批正と指導を加へらるゝならば、獨り本校教育振興上の裨益を受くるのみならず、本日の使命完成への助力として二重の感謝を表し、本校亦素より今日の施設經營に、貴重なる各位の教示、金言を加へ益々研鑽努力、本校教育の完成を期せむとするものである。

南嶽里

青年學校  
小學校

林姓林舍平面圖

昭和二十一年





## 第一篇 緒言

### 第一章 研究發表に就て

本校はその前身である實業補習學校及青年訓練所時代より青年教育の重要なるを痛感し、殊に本村が昭和七年末第一次經濟更正村に指定せられし以來、之が施設經營に相當努力し來つたのであるが、職業科は素より教育全般に涉つてその實績至つて貧弱であつて、遅々として振はなかつたのである。依つて獨り職業科のみに止まらず、全教科に向つて振興の斧を振ふと共に、先づ必要條件として設備の完成と職員を増置を實現せんとし、生徒の修養道場とも言ふべき専用教室の建設を第一先決事項として、速に我が青年生徒をして借家式教育環境より脱脚せしめ、彼等に眞に「我等の學校」と呼び得る現實の校舎を得せしめ、安住と愛着の感を抱き明朗と眞劍なる教育の生活殿堂に入らしめんものと専念した。時恰も昭和十年の春本村小學校々舎改築の議が青年學校新制度の公布と殆んど時を同じうして起つた。時來れり好機逸すべからずとなし、即刻小學校工事と並進的に青年學校専用普通教室を始め、作業舎其他所要校舎の建設を提唱要望した。然るに村當局の理解と努力は忽ち村の認むる所となり、一年有半の後昨秋十月十日を以て待望の校舎は目出度く竣功したのである。而も之に加ふるに本村産業組合長の篤志に依り温室一棟の寄附を受け、第一希望要件を満たすことが出來たのである。之れと同時に人的要素としての職員を増置を提案せし所、幸にも滿場一致村會の賛成を得、本年四月より男子専任教員一名の増員を見たのである。



次に第二次工作として内部的設備の完成へと拍車をかけたのである。而しこの事たるや一見誠に容易なる問題の如く見ゆるも、その實は豫想外に難事なのである。茲に於て我等教職員は専任兼任小學校を問はず、先づ教育の行持に決死的奮闘を誓ひ、「先づ自ら燃へて人を燃さん」と意氣込んだ。けれども本校にては小學校々舎の増改築、青年學校専用教室の建設直後の事として即急なる可能實現性は或は望み得られないものかと疑念したのである。時偶々今次の研究發表當番校として本校が選定されたことは眞に天祐であつた。是ぞ絶好の機會と即時村當局に職業科（農業科）内容充實の設備として相當大膽に要求せしところ、教職員の努力の反映と今次の好機、當局の絶大なる苦辛は凝つて一丸となり、幸にも村會滿場一致の協賛を得更に激勵の辭をさへ寄せられたのである。我等教職員は只管感謝の外なく愈々教育報國の決意を強固にした次第である。かくして本校青年學校の施設は漸次小學校より獨立して現狀に及んだのであるが、教育の營爲は單なる職業教育上の完成をもつて足れりとするものではない。青年學校所定の教科に輕重を認めない我等は更に第三次の猛運動を起さんと待機の姿勢にあると同時に、教育本質の究明に精進し以て青年學校教育全面的完成へ前進せむとするものである。

### 第二章 本校の全貌

- 第一節 沿革（省 署）
- 第二節 學 則（省 署）
- 第三節 組 織

### 一、生徒 數

學 年	普 一	普 二	本 一	本 二	本 三	本 四	本 五	研究科	合 計
男 子	一一	五	二五	一七	二三	六	一一	六	一〇六
女 子	四	三	一九	九	五	一	一	一	四〇

### 二、學 級 編 成

- 第一學級 男子部 普通科一、二年本科一年
- 第二學級 男子部 本科二、三年
- 第三學級 男子部 本科四、五年 研究科
- 第四學級 女子部 女子全部

### 三、教授及訓練時間並ニ季節

1、男 子 部				
晝 間	一週一日	六時間	全 部	一、二、三月
夜 間	一週二日	四時間	普 通 科	
晝 間	一週一日	二時間	本 科 科	
夜 間	一週五日	十時間	全 部	四、九、十、十二月
晝 間	月 二 日	四時間	教 練 科	
夜 間	一週四日	八時間	補 充 教 育	五、六、七、八月



2、女子部  
 晝間 一週六日 三六時間  
 一、二、三、四、五、七、八、九、十、十二月  
 四、入學出席狀況

年 度	入學資格者數		入學者數		資格ニ對スル歩合		出 席 歩 合	
	男	女	男	女	男	女	男	女
昭和七年	八八	五八	八三	三〇	九三、三三	五二、七二	七二、一八	四九、二五
昭和八年	八〇	六四	七五	三六	九三、七五	六五、二五	七二、三三	六二、三〇
昭和九年	九九	六六	五四	四一	九二、五五	六二、一五	八四、三五	六二、三〇
昭和十年	八八	六〇	八四	三一	九六、六六	五二、三三	八二、六六	六四、九二
昭和十一年	一一	六二	一一	三五	一〇〇、〇〇	五五、四五	九〇、〇五	七二、三四
昭和十二年	一〇	三八	一〇	四〇	一〇〇、〇〇	六六、六六		

五、職 員 (昭和十二年度)

職 名	資格	担任科目	氏 名	就 任 年 月 日
校長	小本正	修身公民科	梅本榮次	昭和六年三月三十一日
教諭	專正	農 業 科	北川彦太郎	大正十三年三月三十一日
教諭	專正	農 業 科	横田増次	昭和十二年三月三十一日
教諭	小本正	修身公民科	澤 直 一	昭和九年五月三十一日

六、經 費 (昭和十二年度)

本村經常費	四一八七七圓
小學校經常費	一五一五一圓
青年學校經常費	四五六四圓
全 臨時費	五〇圓
內 課 概 要	
1、專任教員給料	一九九〇圓 三人

職 名	資格	担任科目	氏 名	就 任 年 月 日
教諭	專正	普 通 科	梅本榮七郎	昭和八年五月三十一日
教諭	小本正	普 通 科	杉山秋季知	昭和十一年三月三十一日
助教諭	小本正	普 通 科	山本岩夫	昭和十年五月一日
助教諭	專正	家 事 科	吉居美起乃	昭和五年二月二十日
指導員	步上	教 練 科	池崎政美	昭和九年七月三十一日
全	步上	教 練 科	加納宗四郎	昭和十一年一月三十一日
全	步上	教 練 科	前田良三	昭和十二年三月三十一日
校 醫			垣見助左工門	明治四十二年四月一日
齒科醫			森 島 敏	昭和十二年四月一日



2、兼任其の他手當	三七六圓
3、雜給	一九一圓
4、需要費	二〇八七圓
5、其の他	二〇圓
經常費生徒一人宛平均額	三一、五三圓 (本年度現在)
	二〇、七八圓 (當初豫算)

七、設備概要

1、校舎

一、専用建物

イ、普通教室	土間コンクリート二〇坪 二室
	柔道兼用疊敷 二〇坪 一室
	裁縫室 二〇坪 一室
	動力農具室 一二坪 一室
	管理室 一、五坪 一室
	銃器室 二坪 一室
ロ、特別室	

二、小學校と兼用物建  
 割烹兼加工室(電力水道附)二〇坪一室

作法室	計一〇坪 二室
屋内体操場	一二坪 一棟
農具室	一二坪 一室
温室	計一〇坪 二室(一棟)
衛生室兼生徒宿泊室	八坪 一室
作業室	二八坪 一室
武器室	四坪 一室
畜舎	七、五坪 五區劃
鶏舎	六、五坪 三室
堆肥舎	五坪 一棟
綿羊舎	一、七坪 二區劃
飼料舎	一、五坪 一棟

2、校地

一、運動場

一一〇〇坪

二、實習地

イ、専用實習地

農園 水田 三反歩(學校一反、學校外二反)

蔬菜園 五畝十五歩



- 桑園 一反歩  
 兼用實習地  
 果樹園 一反歩  
 養魚池 雅魚養成地  
 第一號池 八畝歩 第二號池 一畝歩
- 3、校 具
- 一、職業科用 農具、温床、製粉機、製麵機、葉打機、製繩機、製蔴機、瓶詰機  
 圖書掛圖、製麵用具、穀物膨脹機
- 二、教練体操科用 教練銃 五五 飯盒 四〇 水筒 四〇 雜囊 四〇  
 背囊 四〇 機關銃 二 指揮刀 二 喇叭 八  
 幕的 一五 木銃 一〇 体操運動用具 其他
- 三、修身公民科並普通科用 圖書、掛圖、器械標本類其他
- 四、家事裁縫科用 裁縫用具、作法用具、家事實習用具、穀物膨脹器其他

#### 第四節 教育經營の概要……………(別紙參照)

#### 第五節 青年學校教育の重要性

抑青年學校教育の重大にして緊要不可缺である事は今更言ふまでもなく、此の時代に於ける修養の如何はやがて壯年となり職業人として社會に貢獻し國家に盡すの影響に、至大なる關係を有することは改めて言を俟たない。思ふに地人相關の原理は永却不滅にして、人を待つて神の御稜威を開拓し得るものたることは天人共に關知する所である。強く賢く正しき人を有する家は榮へ、社會は繁昌し、國家は興隆するものである。人を造るは人である。されど人を穎智に導き美化するは教育の力である。鐵は熱する間に打たなければならぬ。感受性と感激性に富み熱烈燃ゆるが如き青年の性能は修練することによつてのみ光輝を發するものであることは、幾多の實驗教育學者の證明する所である。

今や國家の前途は樂觀を許されざる幾多の緊急にして重要なる問題が山積し、之れが打開と征服とは國民の全階級を通じてなさるべき責務とは言へ特に今日の青年に期待さるゝものが多いのである。殊に一度眼を農村に轉ずるならば經濟的壓迫は個人生命すら脅さんとし、離村の現象は想像以上のものがある。資本と人物は雨後の奔流の如く殆んど都會に流出し盡さんとし、農村の人口増加は徒に生氣乏しく活動性に恵れない老幼男女に過ぎず、貞嵩むは教育の費用と老人救済に關する費用であつて、農村更生の聲は之れが救済を促して止まず、各般の實行計劃はその形式を整へて進展しつゝあるけれども、其の實踐遅々として擧らず、農業振興を高唱しつゝその策の見るべきものなく、その施すべき術なきのとき、從來の青年教育制度の改正を見たのは、青年教育の重要性和青年の自覺奮起それこそ時勢を救済するの原動力たることを了得してなされたる識者爲政者の達見の表れと言はねばならぬ。



思ふに過去の教育機關が我が國文化の向上の爲偉大なる効績を遺せるは、今更論議の餘地なしと言へ眞に切迫せる農村の危急を救助するには尙搔痒の感があつたのである。爲に稍ともすれば青年子女をして農業を忌避し、農村生活を躊躇させ、離村の現象各所に起りあたら國家有用の材をして高等遊民とならしめ、或は失業者の群に投じ不良の徒となり、農村を害しやがては國家にまで累を及さんとする輩をさへ出するに至る。之れ畢竟農村青年教育の不徹底を物語るものであつて、國家の爲め看過する事の出来ない痛恨事であつたのである。我等は此所に着目する事久しく教育の劃一主義を打破し、眞に農村教育の徹底を目指し、その施設に經營に農村更生と救済に拍車をかけつゝ、着々教育營爲に努力しつゝあつたのである。今左に青年學校の重要性に願み本校教育上留意しつゝある大綱二、三を掲げて見るならば、

一、生徒の思想善導

二、生産機關の整備擴充

三、經濟的農業經營の研究

學校……經濟的農場經營

家庭……有畜農業經營の實施宅地利用

四、副業並一事研究の獎勵並に指導

五、農業日誌記帳勵行

等である。一休青年學校に於ける教科内容を大別するならば修身公民科、普通科、体操教練科、家事及裁縫科、職業科の五科目が選定され殊に修身、公民科、職業科が對比的な重要性を認められた所以のものを檢答するならば、理在の

國民が餘りにも目前の利害と勤勞忌避の實相としての一攫千金の巧利主義に墜し、眞に農業を愛好し大自然への感謝感激の至情は手を扼して徒らに時を空しくする事が出来ないと言ふ崇高にして眞摯なる大國民的勤勞精神を忘却し、醉生夢死遂に自暴自棄あたら尊き青年の重大期を奈落の底に呻吟せんとする危険性多き青年への教育對策と見るより外ないのである。さうであるから吾人は先づ修身、公民科に於ては申すまでもなく各教科を通じて思想善導は青年教育實施上の最重要事とせなければならぬ。されども青年の思想を善導しようとするには單なる教訓に止まるは最も危険であつて、教育的効果も誠に少なく時には不慮の結果に立到ることの過去の經驗より、本校に於ては作業と連絡し別項揭示の作業計劃に依り、具案的經濟的しかも趣味的に創造的に志向しつゝ善導への好侶件となさせ、之れが結果の尊重はやがて來るべき創造計劃の根據ともなるべきものであるから必ず農業日誌の記入を強制し、之れが指導をなすと共に更に工夫創造新計劃の樹立をなさせ、農業に對する副業の研究さうして經濟的農業經營之れ等は普通科、教練体操科の教授及訓練と圍繞して身心共に健全なる青年たらしめやうとする企圖である。

由來農村青年が頭のみ太り日々手足の細り行くを見て人いたく之れを嘆じ、我も亦漸くそれを自覺しようとして既にその遅きの悔を後世に残すの前轍を顧み、任にあるものは一意奮起農村青年教育振興と青年の發憤を促す爲、努めなければならぬのである。

農村の黎明期!!

特に現在の農村は盛衰の岐路に立つ黎明期である。獨創力に富む計畫的産力と、飽くまで生業に對して誠意ある努力的人物を要求して已まず。清新なる希望に滿ち絶えず向上して行く所の眞の農村文化は、より實行的な人物に依つて建設されて行くのである。堅實なる農村文化の創設は目下の急務である。而して其責任者となる者は之れが實行的



中心勢力たる青年を他に於て奈邊に見出し得るか。かく考へるとき青年人間の改良が、總ての改善の出発点であり又到着点であると言はねばならぬ。農村不振の今日農村青年の教養の重大なるは今更筆紙を要せぬ所である。けれども青年學校教育の重要性は青年期を擁護し道徳的感情を純化擴充し、職業に對する認識を更に一層濃厚にし修養の必要を理解し以て將來皇國民として恥かしからぬ身心を教養させることにあることを附加して此の稿を終らんとするものである。

### 第六節 本校教育經營の根據

本校教育が如何なる原據に依るかは極めて重大なる問題であるが、概説すれば聖旨を奉戴して青年學校令を唯一の指針として身心の練磨をなすつゝあることは、今更論するまでもないけれども、それは餘りにも形式的であつて内面的に失する憾もあり、今少しくその原據と見らるゝ二、三を列挙するならば、

- 一、勞作原理に立脚して
- 二日本精神に立脚して、
- 三農村の現狀に立脚して、
- 四郷土開發を目指して、
- 五從來の農村教育の對策として、

## 第二篇 本校職業科に對する教授及訓練の實際

### 第一章 職業教育實施上の基礎的調査

#### 第一節 村の職業に關する歴史的文化的考察

- イ、村の發祥、
- ロ、村内氏神と職業、
- ハ、古よりの諸行事、
- ニ、業態の變遷、
- ホ、俚語傳説、
- ヘ、口碑習慣、
- ト、風俗、

#### 第二節 村の職業に關する地理的自然的事象の概観

- イ、地形、
- ロ、位置、



- ハ、面積廣狹、
- ニ、地質、…土壤の性質、特徴、濕乾地調査、
- ホ、發展的過程の調査、
- ヘ、水利状況、
- ト、氣象關係、

### 第三節 村の職業別戸數人口動態

- イ、年次別大字別戸數並人口調、
- ロ、部落別人口數調、
- ハ、寄留調、
- ニ、部落別職業別戸數調、
- ホ、水産業者調、

### 第四節 村の生産調査

- イ、主要農産物の種類別生産額調、（普通作物及蔬菜作物、特用作物、果樹類）
- ロ、副業による生産物調、（養蠶、養魚、家畜、家禽）
- ハ、農産加工による種類別生産額調、（自家用醬油、漬物、薬細工、竹細工）

- ニ、經濟上より見たる本村産業の將來性、（調査を累年的とす）
- ホ、近代文明が農業に及ぼした影響、（動力使用状況、機械使用状況等）
- ヘ、家内工業調、

### 第五節 肥料調査

- イ、金肥使用状況調…（累年別）
- ロ、堆肥生産状況調、
- ハ、綠肥作物栽培状況調、
- ニ、價格調査、

### 第六節 村の農家勞力調査

- イ、勞働時間、
- ロ、農業を中心とする勞力調査
- ハ、農業を中心とする畜力調査、
- ニ、農業を中心とする機械力調査、

### 第七節 村の耕地面積調査

- イ、大字別耕地面積、



- ロ、農家と耕作面積、
- ハ、米作裏作蔬菜作付反別、
- ニ、耕地出入關係調、
- ホ、耕地別農家戸數調、

### 第八節 村の農家業務調査

- イ、本業を中心とする業務調査、
- ロ、副業を中心とする業務調査、

### 第九節 村の産業団体調査

- イ、各種實行組合内容調査、
- ロ、共同作業場調、
- ハ、副業共同団体調、
- ニ、金融機關の調査、

### 第十節 生徒の家庭調査

- イ、職業、

- ロ、家族、
- ハ、生徒の出生地位、
- ニ、資力程度、

### 第十一節 村の特殊事情

- イ、經濟更生村としての狀況調査、

## 第二章 職業教育に對する態度

### 第一節 本校職業教育の方針並教育綱領

#### 一、方針

本校教育方針に則り、堅實なる農民の教養と、將來本村農業開發上の先驅者たる知識技能を修得せしむ。

#### 二、教育綱領

- 一、尊農精神に燃ゆる中堅農民の養成。：農本主義
- 二、研究心の横溢せる新進氣鋭の農民の養成。：文化と發展
- 三、協同和睦以て共存共榮に活きんとする農民の養成。：社會生活の本義
- 四、經濟の道德化を体認せる農民の養成。：報德精神



五、職業を通じて郷土國家への奉公をなさむとする強き信念を有する農民の養成。：日本精神

## 第二節 作業訓並模範人物

一、作業訓 至誠力行

二、模範人物 中江藤樹

二宮尊徳

## 第三節 職業教育に對する信念

一、尊農の眞意に徹し農道精神の顯現産業開發の熱意に燃ゆること、

畏れ多くも天皇陛下が水田に下り立たせ給ひ秧苗し給ふも、皇后陛下が御養蠶所に御手すから蠶を飼育し給ふも國民全体の先頭に御立ちになつて尊農の意義をはつきりお味ひになつて國民全体にその眞義を明確に知らしめむとの大御心と拜察され吾等はその御聖旨を拜戴して神代からなる尊農の民風を体認し農産物に對する絶対價値を自覺し感謝の念を振起することは、やがて生産者に對する感謝の至情ともなるものである。この眞情こそ農道精神の眞諦とも言ふべきものであつて、政治教育の根底ともなり公民教育の出発点ともなり得るものである。今や農村の興廢農道精神の盛衰は、國家の重大問題なれば、國民齊しく尊農の精神を喚起し以て民力の涵養に努むべきことを先づ教師自から痛感すべきである。

二、滅私奉公舉國一致の精神を体認し、夙夜聖旨を奉体し農業を以て自己の天職と信じ、銳意實踐以て本校職業教育

の實蹟を示すことに努むること。

私心を去り公道に則り舉國一致君國の爲奉公するの精神は、獨り農民のみならず國民全体の必要とする所である由來我が國民が戦争にのみ強く産業に弱き譏りを受けたりしが、吾等は奮然立つて平和の競争たる各種産業の發展を期せねばならぬが、我等農業に従事するものは、特に一致共同犠牲的奉公の精神を以てその向上發展を圖らねばならぬことを意識せねばならぬ。

三、身体を強壯にして明朗調達確乎たる精神の把持に努め、よく大事をなすに堪ふるの鍛鍊と修養に留意し斷乎たる實行力を有すること。

國民体力の向上發展の問題は、獨り農民にのみ止まらざれども、勞働力を絶対必要とする農業に於ては、殊更その必要を痛感するのである。その上農業經營の多角形化海外發展殖民地經營等如何なる大事に直面すると、斷じて躊躇せざるの体力と精神力は愈々その必要を加ふるものである。青年學校教職員たるもの、特にその邊意識して自己の身体を練磨すると共に益々その必要を生徒に痛感せしめなければならぬ。

四、經濟への關心を濃厚にし、經濟的産業經營の研究を怠らず、勤儉力行の美風を發揮し、以て經濟と國力との認識を確實にせなければならぬ。

郷土に立脚し經濟的農業經營の指導を怠らず、勤儉力行確乎たる産業觀を持たしめることは、現近の疲弊せる農村を開拓する大切な道である。漫然たる生活形式を捨て堅實なる安住生活を營ませることは農村救済の先決問題である。殊に國力と經濟力との調和それは現時の最重要事であることを知らさねばならぬ。

五、生徒の個性と境遇を理解し、郷土の實情を調査研究し、眞に適切なる教育營爲を企圖すること。



個性調査環境の理解が教育上如何に重要なるかは、今更論議の餘地はない。然し農業教育に於ては一層その感を深くするのである。故に教育の基礎とし指導の根底として、之れが調査の徹底を期するは、教育作用上最も大切にして有効なるものと思ふ。であるから生徒の個性観察環境調査を綿密にし、郷土調査と相關聯させ有効適切な指導をなす様心掛けなければならぬ。

### 第三章 職業教育方案

#### 第一節 職業教育体系……(別紙参照)

#### 第二節 實習指導に就いて

農業科はその教則の示すとほり、農業に關する普通の知識技能を習得せしめ、經營能力を養ひ、農業の趣味を長じ勤勉利用の心を養ふのであるが、其の普通の知識とは農學の研究に成る理法であるから、之れが理解を十分ならしめる爲には實習實驗に俟つべきものが少くない。又農業に關する技能は原理原則を實地に應用することに依り一層適切となるもので、單なる技能に止まることは、考ふべきことである。殊に農學による原理原則は時と場所とによつて、或は作物家畜の種類經濟的關係等によつて、千變萬化するものであるからその實地應用には換骨脱体の妙がなくてはならない。然し農業に對する趣味も、勤勉利用の心も、農業實習に依つてのみ其の目的を達し得るものであつて定

農事實習は農學的知識技能の傳達と、農民精神の涵養上必要欠くべからざる要件で、農業教育上の中軸とも言ふべきものである。

#### 一、農業實習の價值

農業實習は農業教育の生命であり、農村學校の經營上欠くべからざる教育施設である、それであるから農村教育に當らんとする者は直接間接農業實習の教育的價值を正しく認識し、全員共同奮闘主義に依つて之れが徹底に努めなくてはならぬ。今實習による効果の二、三を列記すれば、

- イ、農學的知識を確實にし技術を精練することが容易である。
- ロ、注意力觀察力の養成。
- ハ、品性の陶冶。
- ニ、宗教的情操の養成。
- ホ、協同心の涵養。
- ヘ、生徒を通じて郷土の農業、並に民風の改良を圖ることが出来る。
- ト、經濟思想を高める。
- チ、農業經營に對する理解を與へる。
- リ、學校と家庭との親密を圖る。

#### 二、農業實習の本旨、

實習の目的は既に教授せし事項を實地に應用しその理論を了解せしむる應用的實習と、學理の正確なる事を立證



する證明的實習と、他日教授せんとする教材の了解を容易ならしめる爲めの、經驗的豫備的實習とを以て目標とする事が多い。

農業科はその研究の結果を基礎として、農業の改良發達を企圖する學科である。故に、何れも實驗を尊重しなければならぬ。特にその學びたる理法を實際に應用し實習することにより始めて確實なる知識となり、必要なる技能ともなるものであるから、學理と實地は必ず相並行するものでなければならぬ。

### 三、本村農業改良上より見たる實習指導、

青年學校に於ける農業實習の中心は、地方開發に貢獻する郷土中心の施設であり經營でなければならぬ。如何に有利で將來性を有するとは言へ、其地方に適切を缺くものならば獎勵することが誤りである。今本校が地方開發の先驅としてなしつつある實習の概要を列舉すれば、

#### 1、農業組織並經營の改善上より、

耕種副業組織の確立、

主業、米作、

副業、養蠶家畜、家禽、蔬菜、果樹、其他、動力利用、

多角形式經營、

勞力の分配利用、剩餘勞力の利用、動力使用、

#### 2、水田に關する實習、

イ、米作、品種試験、肥料試験、疏密植試験、深淺植試験、産米改良、

ロ、水田二毛作に關する試験、

#### 3、自給肥料、

堆肥製造實習、紫雲英栽培、

#### 4、有畜農業、

養豚、養鶏、緬羊飼育、耕牛飼育實習、(昨年末耕牛神照村某氏に賣却)

#### 5、養蠶、

稻田養蠶、溜池養蠶、

#### 6、農産物の加工、

イ、自給用

自家用醬油、味噌麴製造、菓子、精米、薬細工、

ロ、商品用

漬物、製粉、製麵、瓶詰加工品、化粧品

#### 7、果樹栽培、

剪定整枝實習、袋かけ實習、病虫害豫防實習、

#### 8、宅地利用、

#### 9、蔬菜栽培、

輪作研究、適性作物の栽培實習、種子の採集、種苗の大量生産、



- 10、不時栽培、  
促成抑或栽培の研究：蔬菜及花卉、
  - 11、竹林、  
竹林の養成、
  - 12、養蠶：女子實習、  
養蠶法の研究、桑園の經營、繭の處理、
  - 13、動力使用、  
製粉、製麵及之れに附屬する各種實習、精米實習、粗摺實習、製繩製蘆實習、その他、
  - 14、購買販賣、  
材料の購入、製品の販賣、
- 以上は本校に於て特に村經濟に貢献し、之れが更生にと計畫しつゝある實習指導の主要であつて、やがて村民の副利増進經濟更新に相當の効果を齎すものと信じて、努力してゐるものである。
- 四、學校實習の實際、
- 1、目標、
    - イ、有機化されたる經濟經營、
    - ロ、農民道德涵養に有効適切なる經營、
    - ハ、地方農事改良に貢献する經營、

- ニ、試験研究の實施、
  - 2、實習心得、
    - イ、日夕四恩に感謝を捧げ天地の靈感に心を清めしめる。
    - ロ、労働の神聖にして働き得るもののみ味ひ得る幸福を体得せしめる。
    - ハ、正確なる計劃により合理的經營を行ひ、能率の増進と生産の増加とを圖らしめる。
    - ニ、常に理論、研究に努むると共に實際的体験と技能の練磨に努めしめる。
    - ホ、絶えず農場を巡視し畑眼を以て周密なる觀察をなさしめる。
    - ヘ、農具は公私の別なく最も大切に取扱ひ、使用後の整理保管を完全にせしめる。
    - ト、病虫害の驅除と雜草の撲滅に努め、農場をして自己の樂園たらしめる。
    - チ、共同作業は各員の性能に従ひ全力を傾注し、和衷協同の精神を以て相助せしめる。
- 以上は單なる生徒に與ふる目標であり心得であるのみならず、常に教師先づ之れを服膺し率先躬行生徒の先頭に立つて模範垂示を怠らず、其の訓練の強化徹底を期して居るのである。
- 3、實習教育の實際、
    - 1、學校實習、
      - イ、蔬菜栽培、
- 目的
- 本村に於ける有効適切なる蔬菜の發見、之れが栽培法の研究と、空地利用による集約的蔬菜栽培を研



究させる。

#### 經營

蔬菜見本園、普通農家に栽培されてゐる蔬菜はその品種が或る一部に制限されてゐる爲め、研究も一般的でない憾がある。各種の蔬菜に就き經驗することはやがて郷土開發上の優良蔬菜發見の端緒ともなることを信じ、特に宿泊訓練生を管理の中心とし一般生徒をも召集、現地指導を目的として經營した。

五ヶ年輪栽園、集約農業上蔬菜栽培は最も容易なるものにかゝはらずその方法を知らないためか、現在の農家にはまだ之れが實蹟を擧げて居る者が至つて少く、所々空地を見るため之れが利用と更に蔬菜の集約的栽培による増産を目指し特設した。

採種園、優良なる種子を得ることが農業經營上如何に大切なるかは今更申すまでもない。本校は本校所用の種子は本校にて生産することを目標として之れを經營し、優良種子の採集に努力してゐる。

花卉蔬菜混菜園、主として女子に經營せしめ趣味性を利用する農場經營と、家庭人としての自給自足主義を考慮して經營した。

#### ロ、水稻栽培、

#### 目的

稻作栽培による各種試験を實行させ、之れが應用と増收の研究をなさしめ、本村稻作改良に貢献させる。

#### 經營

試験田、各種試験に依り合理的水田經營を發見し創作せしめんとする企圖で、小規模なる水田試験所である。しかしそれはやがて自己開拓の先驅ともなり地方進展への偉大なる原動力ともなることを信ずるものである。今左に本年試験中の重なるものを列記すれば、

品種試験、植方粗密試験、本數試験、晩植試験、經濟試験、  
施肥法試験、ポット試験、  
神僕田、

普通田、増收と經濟を目標とし本縣獎勵品種の栽植による理解と普及の徹底を圖らんとするものであると同時に、採種園として村内に優良品種を配布せんとするものである。

#### ハ、裏作栽培、

#### 目的

水田の經濟的利用とし、綠肥、小麥、茶種増産上裏作栽培の勵行をなさせる。

#### 經營

從來本村には水田裏作他村に比較して至つて少く、土地の經濟的利用上甚だ寒心すべきを嘆じ、本校に於ては更生村計劃と相聯關し小麥茶種紫雲英の採種園を兼ね、一面生徒の指導實習地としたのである。爾來その効果著しく近隣を凌駕するに至り、益々意氣衝天研究と試験を繼續して居る。本年の研究の概要は、



菜種三ヶ年連續試驗、(期間昭和十一年度一昭和十三年度品種新不二吾妻新等)  
菜種苗の優劣比較試驗、(品種新不二)

小麥三ヶ年連續試驗、(期間昭和十一年度一昭和十三年度品種滋賀早生小麥十八號)

ニ、果樹栽培、

目的

農業組織の多角形化、宅地及び空地の有効利用を圖る爲、本村獎勵品種につき栽培法を研究させ、本村の果樹の増産と改良を率先勵行させる。

經營

種類及品種、柿、(富有、次郎) 梨、(長十郎、二十世紀、石井早生、菊水) 葡萄、(デラウエア、レドワシントン) 無花果、(ホワイトゼノア、ドーフィン、ブラウンターキー) 梅、(白加賀、養老) 遊柿、(蜂屋、衣紋)

仕立法、柿、(自然歪狀仕立) 梨、(棚仕立：關東式、關西式垣仕立：水平並に斜立バルメット二本仕立コルドン) 無花果、(梅、自然形歪狀仕立)

運動場擴張の爲移轉を餘儀なくされた現果樹園は、樹勢衰弱樹形破壊その成績充分とは言へず、尙將來校舍擴張區域に在つてその距離間隔の如きも狭きに過ぎるが、整枝剪定、肥培管理による努力苦心は漸く枯死をまぬがれ今日を得た。然し植物と雖も管理を綿密にせば相當の効果をj得るものなりとの體驗を得た教育的効果は偉大なものがあつたと思ふ。尙本校が果樹栽培上特に留意しつゝある点は間

作と病虫害に對する豫防驅除の問題である。

ホ、桑園栽培、

目的

桑樹の更新桑園管理の體認を目指し、やがて本村桑園の改良經濟的增收採葉法を工夫創造せしむるための實習場としたい。

經營

品種、(市平) 仕立法、(根刈)

宿泊訓練生を中心として經營し、その桑葉は女子部生徒の飼育する蠶兒に給與す。

ハ、花卉栽培、

目的

單なる美的情操の養成宗教心の啓培に止どまらず、やがて農家經濟の一部にまで思ひを致させ空地利用、採種種子の販賣等努めてその栽培價值を擴充したい。

經營

花卉栽培が實益以外に精神的宗教的に影響する効果の大なるを思ひ、品種の選擇、花色の配合國民的嗜好等に絶大の注意を拂ふと共に、作付方法にも工夫を凝らし、周到なる管理と用土の精選により花卉そのものゝ特色を生かすは、園藝教育上の祕訣である。本校も鉢植露地植何れも用土の嚴選管理の徹底により、有終の効果を期して居る。殊に本校が現在將來に向つて最も研究し工夫せんとするは温



室による花卉栽培である。温室経営の至難なことは總じて経験ある者は体認して居ることであるが、之れが成功は反面花卉栽培の妙境であり、人間味の豊かな美的陶酔境であると同時に、優雅なる趣味の泉である。尙本校が一つの誇りをさへ感ずるものは花壇の経営である。自然美に配するに人工美の景觀はおそらく人工美のみの絶對到達し得られない境致であらう。農村生活に娛樂を興へよの叫びは此處に於て解消せられ、農村生活の理解者ともなり、作物愛護自然物尊重の体得、一枝神佛にとの宗教的欲求も加り、期せずして教育の本質に合するの思ひを抱かせるものである。本校が園藝教育を尊重するのもその爲である。

ト、促成及抑制栽培、

目的

人間の嗜好と好奇心による不時蔬菜實行きの多きと高價なるに着目し、促成抑制栽培をなさしめその有利にして効果大なるを知らしむ。

經營

促成栽培、(胡瓜、菜豆、秋冬、苺、茄子、トマト) 抑制栽培、(胡瓜、茄子)

温室温床利用により、右の如き蔬菜の栽培を實施す。

チ、家畜家禽の飼養、

目的

1、動物愛護の精神を擴充し、勤勞精神の養成協同一致責任尊重等諸徳の体認、更に自己生活への

考慮を圖らせる。

2、學理を基礎とする飼養管理法の研究、

經營

動物飼育獎勵有畜農業の効果の宣傳は過去の夢で、之れによる農業經營の合理化こそ現時の問題である。本校が水田經營に、蔬菜栽培に、相當の成功をなしつつあるは、動物飼育による堆肥の賜ものである。今本校が青年學校のみによる飼育動物を列記するならば、

豚…四頭

本縣種畜場より購入せしもの二頭、石川縣松任農學校より購入せるもの二頭、何れも血統證付であつて、將來青年學校生徒は勿論本村需要者に仔豚を配布する目的である。

綿羊…二頭

本縣農務課の幹旋により福島縣より購入せるものにして、血統證付で相當の優良種である。目下本校の研究動物である。

鶏…白色レグホーン 五羽

名古屋種 十羽

本縣農事試驗場より何れも配布を受けたもので、將來生徒に種卵を配布し品種の統一を圖らんとするものである。

養魚…鯉、鮒



稻田養鰻溜池養鰻により養魚に関する知識を体得せしめ、年々更新する方針をたて將來稚魚の孵化之が配布をする爲め目下研究中である。

以上は宿泊訓練生に依つて直接「飼育研究」しつゝあるもので、間接に知見の擴充特殊生の研究資料となる動物は別紙青年學校教育經營概要にあるため省畧する。

リ、病虫害豫防驅除…省畧

ヌ、農産加工

#### 目的

農産物を加工することに依り、收益の増加剩餘勞力の利用を圖らせ經濟窮迫の農村の現状を緩和せしむると共に、更に一層文化的加工設備の完成に依り、農産物の價值交換による實收増加を企圖させる。

#### 經營

1、食料品の加工

精米、製粉、製麵、製麩、

自家用醬油、

野菜類その他瓶詰、

各種漬物類、

製菓、

2、薬加工、

製繩製筵、

その他、

3、竹細工、

4、化粧品製造、

ル、肥料實習、

#### 目的

肥料は作物栽培上最も大切な生育要素であることを知らせると同時に、自給肥料増産が目下の急務であることを認識させたい。

#### 經營

肥料効果試験による有効肥料の認識堆肥製造法の研究等を実施す。今左に實習の概要を列挙すれば、

堆肥の製造、

肥料配合實習、

肥料の使用法實習…設計書作成、

ヲ、販賣實習、

#### 目的

生産と販賣を公平ならしめ、販賣に對する工夫及實習をなさしむ。

經營



販賣の實習は主として宿泊訓練生になさしめ、販賣に對する修養として常に買手をして快感を與ふこと。

販賣物は美化精選すること

等をモットーとし其の方法は主として個人販賣をなさしめつゝある。

#### ワ、購買實習、

##### 目的

有利に物品を購入することは農家經濟上最も大切なことであるから購入場所注文法等の研究をなさしめると共に、主任教員指導のもとに努めて購入を自由になさしめる。

#### 經營

信用ある商店の選定により簡易なるものより自由に購入させ、主任教員の指導批評を受け漸次獨立して購入することが出来るやうになす。

#### カ、土本實習、

##### 目的

經營上必要なる土地の改良、土地の營繕、建築、コンクリート製圖、測量等の實習をなさしめる。

#### 經營

寓舎畜舎並に農場に於ける排水工事その他土質改良をはじめ、修繕校地校舎の測量製圖等をさせる。

#### ヨ、日誌の記入、

##### 目的

日誌記入が將來の農業經營上最も有効にして大切なことを理解させ、之れが記入を勵行させる。

記入の方法：日誌参照、

#### 2、家庭實習

家庭實習の尊重は本校傳統的の最大方針であつて、専任教員増員の問題も此處に端を發したのである。前述せし様に本校はその熱意とその成績の向上が漸く認められてか、本年度より専任教員の増加が實現し、學校指導家庭指導と交互になすことが出来る便宜を得て、將來一層之れが徹底を期したく懸命の努力を拂ひつゝあるのである。以下特殊の生徒の特殊の指導を除き、生徒全体に強要實施させて居る家庭實習につき略述して見たい。

##### イ、家庭實習指導の方針、

- (1)、家庭並に郷土の實態に立脚して職業指導の實際化生活化に留意すること。
- (2)、合理的な生産技術と實際的な經營能力との陶冶に努め、明日の郷土構成に寄與することの出来る人物の養成に努める。
- (3)、常に指導は正しい目的觀の上に立ち繼續的な過程と相俟つて行ふこと。
- (4)、職業的價値を体認させ、職業觀を確立させることにより、郷土愛の啓發に努めること。
- (5)、常に研究工夫創作の啓發につとめ、經濟的能力の陶冶に留意すること。
- (6)、實際指導に際しては、郷土全体を職業指導の資材となす様心掛けること。



(7)、實習指導に際しては設計書経過表を作製させ收支を明瞭にさせると共に系統的に指導すること。

(8)、勤勞精神を中核とする職業的徳性の啓培に努めること。

ロ、準備

(1)、家庭調査並一事研究題目調、

教師先づ生徒の家庭調査をなし、その農業經營状況を調査す。

本校に於ては生徒の研究工夫創作を奨励するため一事研究を勵行させてゐる爲、毎年一月研究問題につき教師と相談指示を受ける様規定して居る。しかし高學年に於ては數年に亘る繼續研究をなすものもあるが、それもその方法を具して毎年一月題目を提出して指導を受ける様なつて居る

(2)、父兄會

生徒の研究と指導を容易にさせるため毎年四月父兄會を開催す。

(3)、教師の準備、

家庭實習指導曆、

家庭實習指導案、

部落實習指導案、

一事研究指導案、

その他、

(4)、農業日誌の記入、

本科：本校制定の日誌、

研究科：縣農會發行の農家日誌、

(5)、設計書の作成、

稻作、裏作、蔬菜、桑園、宅地利用に關する設計書を作成させ提出させる。

(6)、家庭實習地、

普通科：作業を示し實習結果の記入調査を勵行さす。

本科一、二、三、四年：收支計算を除き全部設計させて居る。

本科五年研究科：獨立して設計させ教師の批評を受けて實施。

(7)、部落共同實習地、

全生徒協議の上決定、提出檢閲を経て實施させて居る。

ハ、家庭實習特別奨励事項、

(1)、經濟更生計劃事項の率先勵行、

(2)、農事改良の先驅者となること、

(3)、奨励事項、

有畜農業：豚、牛、鶏、蜜蜂、

増 收：米、菜種、紫雲英、小麥、桑園、果樹、

宅地利用：空地、宅地、稻田養鯉、



堆肥の増産：野積堆肥、堆肥、

自給経済：農産加工、自家用醬油、麴、菓細工、眞綿製造等、

經營日誌の記入、

一事研究、

ニ、指導事項の概説、

(1)、必須實習、

二毛作となすことの出来る水田一反歩を用意させ左の研究をさせる。

本科一年：植方試験、栽培の方法及順序研究

本科二三年：品種試験、増收研究

本科四年：肥料試験、増收研究

本科五年：肥料經濟試験、増收研究

研究科：同上

(以上の研究の目安として學校水田にても同一試験をなす)

裏作としては、

本科一年：紫雲英の増收

本科二三年：菜種の増收

本科四五年：小麦の増收

研究科……裏作の綜合研究

尙蔬菜に就ても左表に示す通りの研究と學校實習地に於て實地研究せる集約栽培の研究とを擔當させ、その成果を報告させるのである。

研究科	學年					作物
	本科五年	本科四年	本科三年	本科二年	本科一年	
夏作蔬菜苗、 温床育苗	夏作蔬菜 苗、温床育苗	馬鈴薯	馬鈴薯	馬鈴薯	馬鈴薯	春作物
西瓜	西瓜	トマト	茄子	南瓜 胡瓜	瓜	夏作物
柳制蔬菜	結球白菜	人根 深葱	人根 深葱	近江白大根	聖護院燕 近江白大根	秋作物
玉葱	玉葱	玉葱	甘藍	甘藍	甘藍	冬作物

(2)、指導要項、

稻作の部、

品種の統一、

苗代の改良、



本田の改良、  
二毛作の部、  
二毛作田の増加、  
排水の勵行、  
品種の統一、  
採種圃の經營、  
收量の増加、  
大豆の自給、  
桑園の改良、  
反當收量の増加、  
専用桑園の設定、  
栽植畦間の改良、  
間作實施、  
蔬菜栽培、  
宅地利用、  
集約栽培、  
促成抑成蔬菜の栽培、

温床利用の奨励、  
果樹栽培、  
果樹の改新、  
品種の統一、  
剪定整枝法の理解、  
接木法の實習、  
病虫害の豫防驅除法、  
奨励果樹の選定、  
花卉栽培、  
宅地利用上の研究、  
販賣法の指導、  
病虫害豫防驅除法、  
農會青年團と協力、  
藥品製法の理解、  
共同實施の勵行、  
宅地利用、  
農産加工、



自給經濟の理解、  
 大根加工に對する品種の統一、  
 自家用醬油の増産、  
 菓細工自給、  
 その他農産加工品の可及的自給、  
 堆肥製造、  
 製造方法の理解、  
 堆肥に對する價值認識、  
 畜養農業、  
 飼育法の休得、  
 價値の理解、  
 品種の選定、  
 飼料に對する工夫、  
 其他、

稻田養鯉の奨励、農事改良一齊勵行日特設、農業日誌記入等生徒の指導上相當の効果をあらはしつゝあるものもあれども、重複の虞れもあり省畧する。只青年の熱意は相當の大研究をもなし得るものであるから、一事研究のみはその眼前の結果に怯まず實行すべきものと思ひ之れが

指導を適切にして居る。

(3)、指導の方法、

専任教員は各擔當大字を巡回し農會その他農事實行組合と連絡をとり、個人指導に全力を傾け常に適切なる指導を心掛け村農會主催の品評會等には特に出品する権利を與へられ、學校特設の品評會競技會に出品させると共に、農事講習會、講話會、座談會にも參會させ、技術の向上と知識の修得に努めさせてゐる。

尙青年學校生徒經營の田畑には竹筒製の通信筒を用意させ、巡視毎に指導事項を記入投書するの便法は指導上効果大なるものと實施してゐる。

(4)、指導案例：(省畧)

(5)、結果の處理、

立毛審査、坪刈審査、  
 品評會：蔬菜、動物(家庭審査)  
 收支計算の報台、  
 日誌の審査、  
 一事研究發表會、  
 家庭實習經營競技會、  
 稻作增收競技會：村農會主催



## 蕨細工品評會：村農會主催

## 蕨品評會：村農會主催

以上は家庭實習の大意に就て記述したのであるが、不幸時局と學校經濟に禍されて紙面の餘裕を欠き、その内容を詳述することの出来ないのは如何にも残念である。然し家庭實習の強化徹底を圖る爲本校が本年度より實施したるは學校に於ける宿泊訓練の制度である。我等はその結果を靜觀して對策を考究中であるが、學校實習の徹底は同時に家庭實習の強化徹底ともなることであるから、學校に於ける訓練がやがて家庭に於ける忠實なる作業姿態ともなることを目撃して、その成功に絶大なる期待をなすと同時に、本校が既に定めた五ヶ年農業實習指導計劃の完成で、幸ひ時局に超越してこれが完成を許されるならば相當の効果を擧げ得るものと信じてゐる。

今左に計劃の内容を列記するならば、

## 第一年(昭和十一年度)

- 果樹園農場の移轉區劃整理、
- 作業室加工室農具室の新築、
- 豚舎並鶏舎の移轉、
- 溫室の新設、
- 養魚場の完成、

## 第二年(昭和十二年度)

- 水田並蔬菜園の増加、
  - 桑園の新設、
  - 青年學校神饌田の設置、
  - 堆肥舎肥溜の改築、
  - 綿羊舎建造綿羊飼育、
  - 種豚の飼育、
  - 校地内空地利用の完成、
  - 塵芥焼却場設置、
  - 作業室設備完成、…(製粉機、製麵機、精米機、糶摺機、動力用藁打機、製筵機、製繩機、)
  - 加工室設備補充…(瓶詰機、穀物膨脹機、その他食料品加工設備)
  - 製麴室完成、
  - 氣象觀測設備の完成、
  - 固定式溫床、…(五間)
  - 宿泊訓練室、
- 第三年(昭和十三年度)
- 水田面積の増加、…(五反)
  - 牛役舎及役牛の飼育、



- 育雛室の建造育雛器具の購入、
- 納屋の新築、
- 養蠶室の作成、
- 薬局の完成、
- 養魚池の修理飼料室新築、
- 第四年(昭和十四年度)
- 普通農具の購入、火力乾燥室の新造、
- 實驗室の完備、
- 動力農具の完備、
- 第五年(昭和十五年度)
- 各種經營の改造並に修繕、
- 各種經營の完成徹底、

### 第三節 宿泊訓練と職業指導

宿泊訓練が如何なる内容をもち如何なる教育目的をもつて実施して居るかは前節各所で述べたことと思ふが今少しその精神、方法、職業指導の關係等に就き詳述するならば、

#### 一、一齊宿泊訓練

此の制度は本校が従来より実施しつゝあるもので適當な時季に於て或る期間一齊に宿泊させ、各方面の講師を招聘して學科技術の講習をなすと同時に、精神修養をもなすの方法で、其の効果に於ては今更申すまでもなく相當なるものゝあることは實際實施せずとも想像に難くはないが、然し今少し徹底を欠くのは、成功を知ると同時に意識せらるることである。

#### 二、當番宿泊訓練

人格と人格との交渉、魂の囁き等叫ばれて居るがそれ等は一人對一人の場所に於てより實感されることではないだらうか、一齊宿泊訓練が嚴肅であつて壯嚴なるべき時に尙徹底を欠くは多人數なる爲ではなからうか。眞の教化は一人對一人の場合最も深刻に行はるものと思ふ。彼の農場に於て教師と生徒が共に働く時は別人の如く眞面目であり自習時間に机に向ふときも亦同じであつてそれが決して他人行儀でない。その證據には當番日を待つて居る様で、其の感想文などにも決して苦痛の様子が見えない。こんな所を見ると指導の極地と首肯される。翌日作業を教師と生徒が共に計劃し協定し定められたる豫定案によつて孜々と勞作する態度は期せずして、勞作教育の本質とも合致するもので、やがて尊農精神の体得農本理想の顯現發揚地方貢獻よりやがて國力増進の先驅者ともなり得るのであると思ふ。こんな意味から本校の宿泊訓練が行はれて居るのであるが今少し細部に互つて説明して見よう。

#### 一、要旨

本校教育方針の實踐と農道精神の体認顯現に努めしむ。

#### 二、方法



- 1、訓練生  
本科三年以上とし通年的一日交替にて一日の人員二名乃至三名とす。
- 2、日課概要

事項	時刻		行
	自	至	
集合	午後 七、三〇		點檢
修養學習	八、〇〇	九、四五	夜間授業
豫定	九、四五	一〇、〇五	翌日ノ作業豫定
夜ノ行事	一〇、〇五	一〇、二〇	靜座遙拜
就床	一〇、二〇		消燈
起床	五、〇〇	五、四〇	美化炊事
朝ノ行事	五、四〇	六、〇〇	遙拜、ラヂヲ体操
朝作業	六、〇〇	七、〇〇	家畜ノ手入
朝食	七、〇〇	七、二〇	食事後休憩

3、行事

朝の行事 朝には皇運の彌榮と、今日一日の無事を祈る。  
夕の行事 平安なる一日を感謝し、明日の幸福を祈念す。

修養學習	八、〇〇	九、〇〇	
作業	九、〇〇	一二、〇〇	
晝食	一二、〇〇	一二、二〇	食事後休憩
作業	一、〇〇	五、〇〇	休憩 二〇分
記帳	五、〇〇	五、三〇	記帳反省解散
其			

4、作業

- 家畜の飼養管理、
- 農場の經營、
- 農産製造並加工實習、
- 動力農具に依る作業、



各種団体への奉仕作業参加、

5、學 習

一般學習、

個別指導、

自習、…文庫の利用、

ラヂオによる學習、

6、宿泊訓練生の銘

一、教育勅語ノ聖旨ヲ奉體シ之ガ格遵ニ努メヨ。

一、農ハ國ノ本タル所以ヲ意識シ農村ノ中堅タランコトヲ期セヨ。

一、明朝ニシテ質實ナル氣風ヲ作興シ高潔ニシテ和樂ノ生活ヲ期セヨ。

一、德行ヲ練磨シ小勇ヲ去リ大勇ヲ獲得シ風格ヲ高メヨ。

一、規律禮儀ヲ重シ正道ヲ直進シ四界ニ恥ヅルコト勿レ。

一、自己ノ存在ヲ感謝シ社會ニ對スル責任ヲ自覺セヨ。

一、總ベテノ業務ニ自己ノ生命ヲ捧ゲヨ然ラバ眞理ハ生マル。

一、理想ナキ所ニ努力ナシ努力ナキ所ニ仕事ナシ理想ヲ抱ケ然シテ人生觀ヲ確立セヨ。

三、訓練と勞作

訓練とはその生徒の持つ天職の遂行を促し自律的人格を陶冶する即ち學習によつて得た知識を生徒自らの實

踐に移し之によつて直ちに情意を陶冶し善良なる習慣を養ひ性格の育成を期せんとする作用でなければならぬ。その善良なる習慣こそ訓練に於ける最後の收穫でなくてはならないと思ふ。

1、作 業

個人的に各種の實習作業を課し知識に訴へることを最小限度とし能力に訴へることを最大として熟練と働くことの喜びを喚起させる。

2、自治的共同作業の組織的訓練

職業愛好の精神を持たせ常に天職の遂行をなすの態度を促し自律的人格の陶冶に努める。

3、奉仕的訓練

科學的創造的研究態度を養成し以て産業奉仕の精神を訓練す。

四、訓練と學習

將來文化國民としての教養を積ませる爲めには多方面の學習を奨励せなければならぬ。職業人として必要なる學習は單なる關係書籍の耽讀では不充分である。人格向上の爲の學習でなければならぬ。

1、社會的事象の活用、

2、自學研究態度の養成、

3、青年文庫による讀書指導、

4、ラヂオによる學習、

以上は學習指導上常に留意しつゝあることであるが殊に青年の指導上時事問題を學習の材料とすること



は最も大切なことと思ふ。

### 五、教育方針との關係

本校が農村に在る子弟を教育する使命を再検討するとき、それは農業教育の振興による尊農精神の顯現、農本主義の理解と、此の使命遂行を目的とする施設の完成でなければならぬ。本校教育の方針も亦それを他にしていればならぬ。我等は自然を相手とし土を中心とする教育施設を通し、土を仲介として靈の接觸を圖るものなることを知らしめ、愛土精神の擴充を考慮することが本校教育方針を最も有効に實現して居るものゝ所作だと思ふ。

### 六、訓練に要する經費

#### 1、食費

宿泊中に食する必要なる白米を持参させ副食物は學校で經營する収益の一部又は學校にて生産する製品中に女子部生が調理して配給する。

#### 2、其の他

宿泊生に依る生産利益金にて各種訓練に必要な設備を整えんとして目下文庫の充實作業服その他作業に必要な消耗品の可及的補給等をなしてゐる尙將來その利益金を以て彼等が職業に就かんとするときの金融ともなし利益金の分配をも考慮してゐる。

## 第三篇 結びの言葉

以上章を追ふて結論を急がむとするとき、北支に事變勃發し、我が正義正道も頑迷なる支那の應ずる所とならず、事態は益々擴大を來し、今や戦線は中南支にも及ぶに至つた。爾來我が皇軍の活躍は海陸共に目覺しく、無敵日本軍の眞價は如實に發揮せられ、その威力は全支を震撼せしめ世界列強國を齊しく驚嘆せしめつゝあるのである。されど我等國民たるものは、此の事變に従ひ壯烈護國の神と化せられし幾多の勇士の英靈に對し、感激の誠意を表すると共に、終焉圖り知るべからざる此の非常時局に對し、眞に大なる決意をなさなければならぬ、而して又第七十二回帝國議會の召集せらるゝや、開院式に當り時局に關し特に優渥なる勅語を賜ひ、眞に恐懼感激措く能はざるのとき、更に所管大臣より我等教職員に對しその嚮ふべき道として、

舉國一致忠勇の精神を發揮し滿腔の赤誠を捧げて皇軍の後援に努むることは固より當然の事である。

殊に教育教化並に宗教の職に在るものは益々時局に對する認識を深くし、彌々奉公の精神を振作し各々其の職分に恪循して碎勵の誠を致さねばならぬ。

と訓示されたのである。されば我等教育者の重責は愈々加はり教育報國の誠を具現すべき時は當に到來したのである我等青年教育者たる者は益々青年教育の本旨徹底に全力を傾注しなければならぬ。

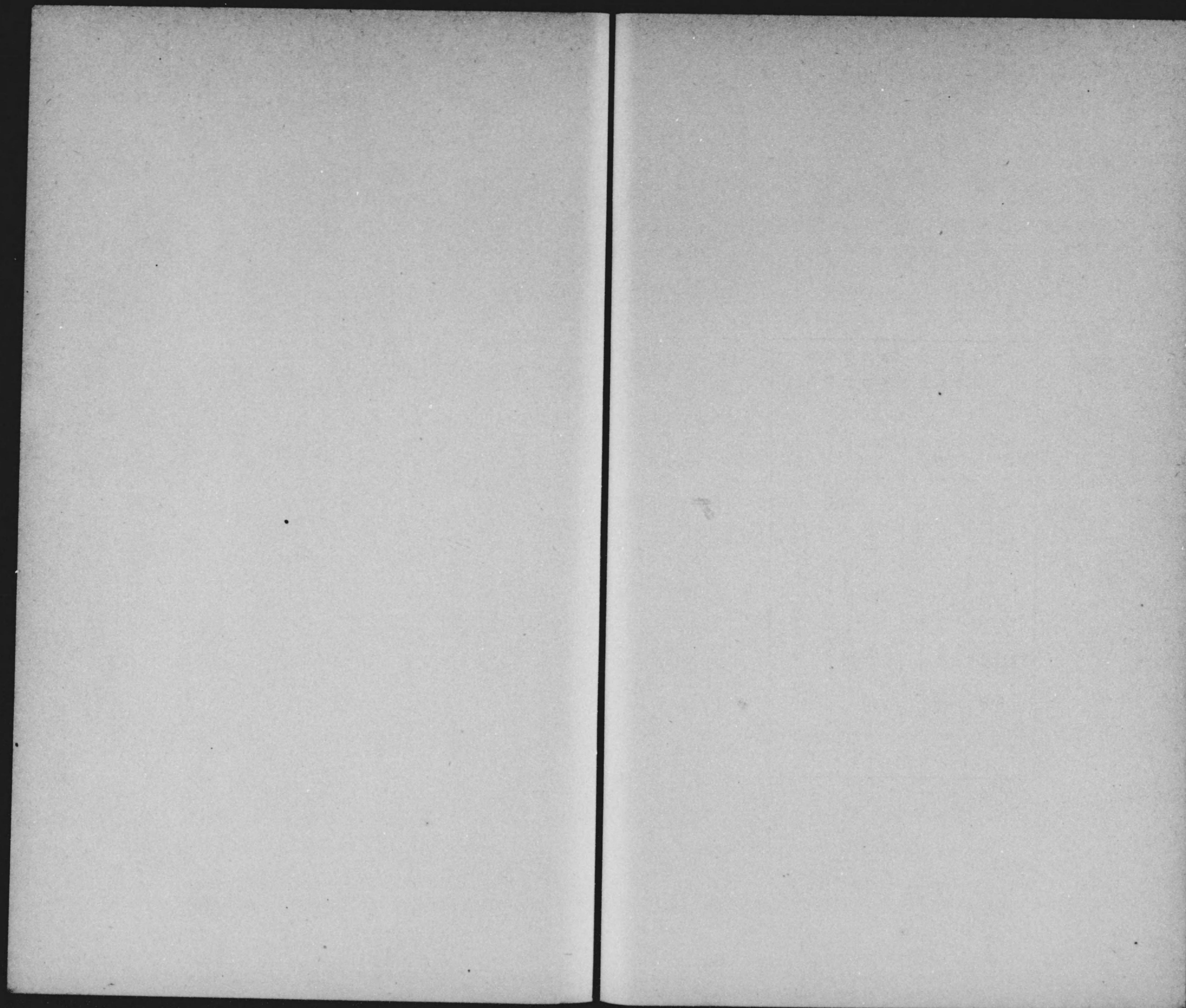
而して青年教育の要諦は、青年本來の純情に對し教師の全人格なる不斷の愛と熱とを注ぐことであると信じる。これに依つて師弟融合一體の教育相は必ず醸成さるゝものと確信する。此の教育精神は教育全部に涉るべきものなる



も、特に職業科教育に於てはその重要なを認むるのであつて此の教育精神を根底としてこそ一切の設備も施設も眞  
 價を發揮し、教育効果の完きを得るものなるを信じ結びの言葉とする。

刷印日一月十年二十和昭			
行發日五月十年二十和昭			
發行所	編輯者	印刷者	印刷所
滋賀縣坂田郡南郷里青年學校	滋賀縣坂田郡南郷里青年學校内 相本榮次	滋賀縣坂田郡南郷里村大字小堀 荒田弘	滋賀縣坂田郡南郷里村大字小堀 荒田印刷所
【品 賣 非】			

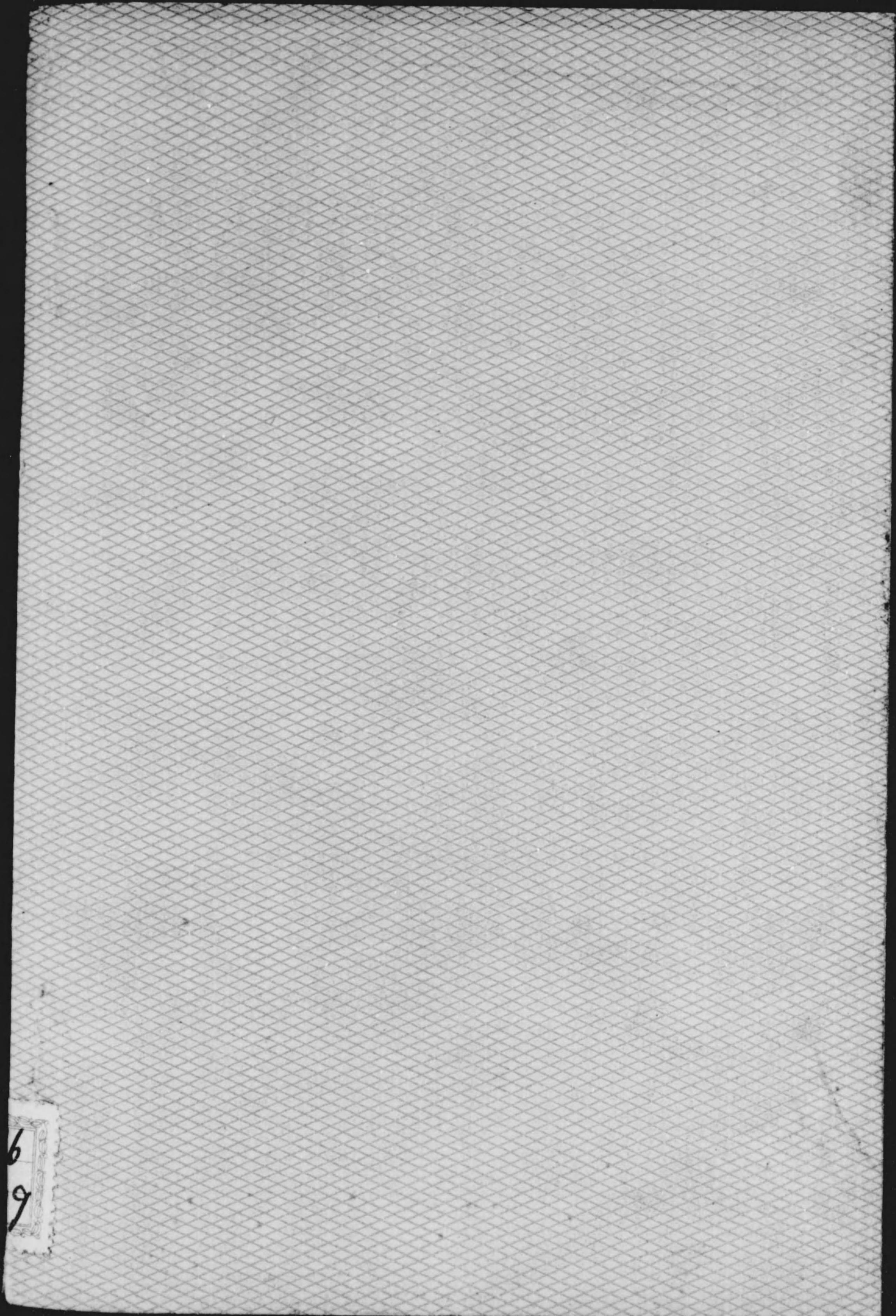












6  
9